

令和3年度境港市介護保険運営協議会(第1回) 会議録

■ 日時:令和3年5月26日(水)午後1時20分~午後2時20分

■ 場所:境港市役所 第1会議室

■ 出席者(敬称略) 会長…◎ 副会長…○

(委員) ◎永井 俊 ○松本 幸永 足田 京子 荒井 祐二 稲賀 潔
植田 建造 來間 美帆 遠藤 勳 佐々木 憲子 山本 英輔

(事務局) 阿部 英治(福祉保健部長) 片岡 みゆき(長寿社会課長)

竹内 真理子(地域包括支援センター所長)

赤井 和代(介護保険係長) 吉岡 賢次郎(高齢者福祉係長)

(欠席者) なし

(傍聴者) なし

(日 程) 別紙資料のとおり

■ 会議録(要旨)

1、開会(片岡長寿社会課長)(13:20)

運営協議会の運営について

【事務局】

(1) 欠席報告

これより第1回境港市介護保険運営協議会を開催する。本日欠席者なし、設置要綱第6条第2項の規定により、この会議が成立していることを報告する。

(2) 福祉保健部長あいさつ

事務局あいさつ

(3) 資料確認

2、永井会長あいさつ

3、報告事項について

【会 長】日程3の報告事項に入る。

(1)地域包括支援センターの運営状況について、事務局から説明をお願いする。

【事務局】

ご報告に入る前に資料の訂正を。資料報告事項①16ページの健康教育、実施回数43➡44に、人数1381➡1389に、訂正をお願いし謝罪する。

それではご報告をしていく。

報告事項1、地域包括支援センターの運営状況、資料報告事項①1ページ目「設置状況について」

直営一本化となり、2法人から表のような職種に出向しており、市の会計年度任用職員として地域包括支援センター相談員1人を6月に追加し、総勢17人の配置となっている。

地域包括支援センター相談員の3月退職に加え、この後説明するが、要支援1、2のケアプラン件

数の増加に適切に対応できるように、令和3年5月からは、済生会ケアセンターよりケアマネジャー1人を追加で出向いただいたことをこの場をお借りしてご報告する。

「活動実績について」

①相談・支援件数及び内容。 地域包括支援センター⇒様々な相談、総合相談の件数。

指定介護予防支援事業所は要支援1,2の方のケアマネジメント、ケアマネジャーとしての関わりとなる。

表1は、要支援1,2のケアプラン件数を月別に表している。ご覧いただいているように、6月から急増し、それ以降増加傾向に。また、表2のように、前年度より月平均でケアマネ1人分に相当する42件の増加となっている。

やはり、コロナ禍で外出自粛の影響により、身体と心の衰えが懸念されており、その現れではないかと考えている。

ただ、市役所に包括が設置となり、皆様が相談しやすくなっているのも、早めの相談、また必要な方への介護保険利用ができ、悪くなるのを少しでも予防できればと思っている。

②相談支援内容は、総合相談としての内訳。引き続き総合的な相談窓口として、機能していきたいと考えている。

続いて、予防事業の実績である。

令和2年度は全ての事業が、コロナ禍のため、中止や縮小となっております。しかし、自粛のため、活動量も減少し、フレイル状況に陥る事が懸念されることから、感染予防対策を徹底し、出来ることから、出来るような工夫を講じ、住民の皆様にもご協力いただき、実施した。

「4ページ、運動機能向上事業について」

令和2年度は「いきいき百歳体操のフォロー」として、春の緊急事態宣言解除後活動再開時に、市内の主要な実施会場を周り、感染予防対策について情報提供をし、実施状況の確認を行った。

「6ページ、認知症予防事業」

例年開催している、認知症自主サークルの学習交流会、認知症になっても安心して暮らせる町づくり市民大会など講演会は中止とした。小学生に対して認知症サポーター養成講座や、認知症自主サークルの活動が再開となった時に、感染予防策の情報提供と実施状況の確認に周った。

「11ページ、口腔機能向上・低栄養改善事業」

保健相談センターで健口づくり講演会・歯科口腔機能検診行い、例年開催する講演会は中止。

「12ページ、認知症初期集中支援推進事業」

① 認知症初期集中支援チーム員会議

早期診断、対応に向けた支援を検討、実施するもの。チーム員は包括の専門職と、専門医として済生会病院神経内科、粟木先生、令和2年度は9回、11件の検討を行った。

② 認知症地域支援推進員による相談

個別での相談に加えて、ふれあいの家や教室などに出かけ、相談を受ける。出かける事で、認知症地域支援推進員がいることの啓発の場にもしている。

③ おれんじカフェさかいみなど

認知症地域支援推進員が中心になり開催。

「14から17ページ, 健康教育、健康相談」

令和2年度は、コロナ禍の中、外出を控える高齢者の方も多く見受けられ、フレイルの状況に陥りやすくなっています。そのことから、小学校と連携をし、地域の高齢者の皆様に、小学生が自分たちの近況などを手紙に書き、元気を届けていく、という「手紙で元気を届けよう運動」というのを、実施。手紙を頂かれた皆様方からは、「うれしかった気持ちや、元気をもらった」等学校や、長寿社会課へ、お礼のお手紙を多数頂いた。子ども達と地域とのつながりや温かさを感じる取り組みとなった。その他、ふれあいの家が開催時に、同じように感染予防対策の情報提供と、実施状況の確認に回った。

実績には上げてないが、コロナ禍で「集う場」が中止となった間は、「フレイル通信」という、感染予防策や、フレイル予防の対策、脳トレ等と合わせて紹介する6ページくらいのパンフレットを作成し、ふれあいの援助員や自主サークルの皆様の協力を頂き、「どうしとる～」と玄関先での声かけと合わせて参加者に配布をしていただいた。

「17ページ, 家族介護教室」 コロナ禍のため、中止した。

「18ページ, 元気シニア増やそうフレイル予防事業」

平成30年度から予防事業の中心とし、各事業を連動させながら進めている。フレイル予防についての啓発講演会、フレイルサポーター養成講座はコロナ禍のため、中止。フレイルチェックは規模を縮小し7回、サポーター連絡会を6回実施した。

また、全地区のふれあいの家を回り、フレイルについての講話と予防策の情報提供を行った。

「22ページ, 地域包括ケア推進事業」

各種専門職がそれぞれの会議毎に参加をし、顔の見える関係を作りながら、個々の事例をとおし必要な施策を協議していくもの。地域ケア個別会議、ケアマネ事例検討会、そしてフレイルチェック後のハイリスク者へのフォロー体制を協議する、フレイル予防コア会議等を実施した。

「24ページ, 安否確認訪問の件数について」である。

【会 長】 ご質問等があれば、願います。

【委 員】 文言の統一をした方が良い。配食サービス→食事サービスに。(市社協も食事-ビスとしている。)訂正箇所の指摘あり。20ページ渡地区のふれあいの家開催場所、区の名前の訂正を。渡西会館、渡 16・19 区に。7ページ渡小学校サポーター養成講座2回目を1回目に。

認知症地域支援推進員による相談が3件と少ないがどうしてか。

【事務局】 訂正については了解。相談件数については、ふれあいの家で援助員さんや本人から相談を受けた件数。日々の業務の中で訪問や電話・面談などで、かなりの件数随時相談を受けている。

【委 員】 提案である。コロナ禍で事業など中止となることが多いと報告を受けた。情報機器、ITなどを上手く使い、新たな時代に対応した事業の展開をしていくことも必要と思う。出かける事も大事だが、出かけられない方も多い中、自宅で出来る方法、ライブ発や中海テレビの利用など。

【事務局】 百歳体操 DVD を自粛中は取りに来られた方も多くいた。自宅でできる介護予防策

について現在実施しているものと合わせ、提案頂いた内容は参考にさせて頂く。

【会 長】 その他、ご意見、ご質問等はないか。

【委 員】 (意見等なし。)

【会 長】 (2)介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況について、事務局から説明を。

【事務局】

報告事項②「介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況について」説明する。総合事業の事業所指定状況と令和2年度の実績を記載している。令和2年度末の指定事業所数は訪問型、通所型共に17となっている。今年3月にこの運営協議会で承認をいただいた外江町の「スポーツデイトレパーク」が、5月から新たに指定を受けた事業所として通所型サービスを開始している。令和2年度にサービスを提供した事業所の数は訪問型が17、通所型が19となっている。給付実績は、これまで要支援の認定者数増加に伴い増加傾向にあったが、通所型サービスは、令和元年度と令和2年度との比較で延べ利用件数はほぼ横ばい、給付額は僅かに減額となっている。要因としては、施設の受け入れ体制が限界に達してきていること、新型コロナウイルス感染症の影響で通所型サービスの利用が控えられたことなどが考えられる。引き続き分析をしていく。

【会 長】 ご質問等があれば、願います。

【委 員】 (意見等なし。)

【会 長】 (3)認知症初期集中支援チーム活動報告について事務局から説明を。

【事務局】

認知症初期集中支援チーム検討委員会に入る。この委員会は「認知症初期集中支援チーム員会議」がどのような目標をもって業務に取り組み、どのような成果を得たか、あるいは課題が残っているかを明らかにしていくものである。

1 ページ目、認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)から続いて、令和2年6月に取りまとめられた「認知症施策推進大綱」、資料の4ページ、5つの柱の「③医療・ケア・介護サービス・介護者への支援の中の、早期発見・早期対応、医療体制の整備」に位置付いている。

境港市の認知症施策では、普及啓発、予防、家族支援、などと合わせ、早期発見・対応に関することとして「認知症初期集中支援推進事業」で「チーム員会議」を行っている。

平成29年度にチームを設置することを位置づけており、令和3年度からの第8期にも継続実施としている。会議の内容は2. チーム員会議の内容①②③のとおりである。

対象者は原則として40歳以上で、在宅で生活しており2ページ右上のいずれかの基準に該当する者、記録は利用者基本情報、アセスメントツール、会議記録であり、その人をおって1か月3か月、6か月とモニタリングを行い、その結果は全員をその対象月には会議で経過報告を行っている。また、モニタリング表を作成し、継続、終結が分かるようにしている。

最後の2ページ、資料1~3が具体的な様式である。令和2年度は9回実施、11事例を検討した。相談は、家族からが一番多く5件、民生委員からも2件、本人からの相談もある。医療機関、薬局

とも連携シートを活用をしている。包括にチームを置く良さは、相談が集約する場であることが大きい。今後も、このチームについて広く啓発し、活用してもらえるように努める。

【会 長】 ご質問等があれば、お願いします。

【委 員】 認知症の初期症状はどんな症状か。認知症と物忘れの違いは？

【委 員】 資料2DASC-21 のような内容である。自己チェックをしてみるとよい。

【委 員】 被害妄想がでるとだいぶ進んでいる。

【委 員】 班長の時、市報配布の段取りがうまくできなくなったなど、何かのきっかけでわかる。

【事務局】 同じことを何回も繰り返すようになる、着るものの季節が違って来るなど。

何を食べたか思い出せないのは普通の物忘れ、食べたこと自体を忘れるのは認知症の症状と言われている。

【会 長】 その他ご質問等があれば、お願いします。

【委 員】 (意見等なし。)

4、その他

【会 長】 それでは「4 その他」について、事務局から何かあるか。

【事務局】 (なし)

【会 長】 委員の皆様からは何かあるか？

【委 員】 特になし。

5、閉 会

【会 長】 それでは全ての日程が終了したので本日の会は閉会とする。

14:20終了